

第14回 丸山眞男文庫記念講演会

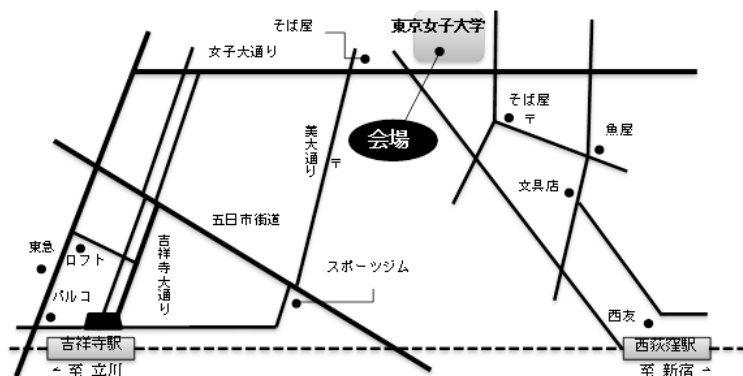
世界に向けて 東日本大震災を 記録する

—危機アーカイブの効用と構築のための課題—

*Building a Digital Archive of the Great Eastern Japan Disaster:
Potential and Challenges of Crisis Archiving*

講師: アンドルー・ゴードン氏
(ハーバード大学教授)

日程: 2012年7月5日(木)
時間: 16:30~18:00
会場: 東京女子大学 24202教室
東京都杉並区善福寺2-6-1



JR西荻窪駅北口より徒歩約12分。
西荻窪駅北口より吉祥寺駅行きバス / JR・京王井の頭線吉祥寺駅北口より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車。

問合せ先: 東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター
TEL 03-5382-6817
marubun@lab.twcu.ac.jp

申込不要 入場無料 (講演は日本語で行われます)

【講演の概要】

東日本大震災の救援と復興に際しては、国内だけでなく、国外からも多くの支援の手が差しのべられました。なかでも、アメリカの近代日本研究をリードするアンドルー・ゴードン教授を中心とするハーバード大学のプロジェクト「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」

(<http://jdarchive.org>)は注目すべきものです。今回の震災と復興において飛び交った無数のデジタル情報を収集し保存するこのプロジェクトは、震災の状況や復興の経験をトータルに把握し、国際的に共有することで、将来に生かすとともに、被災者の方々にとっての心の癒しとなることをめざしています。

これと時を同じくして、東京女子大学は2012年度より、丸山眞男文庫所蔵資料のデジタルアーカイブ化事業を柱とする研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を開始しました(文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」プロジェクト)。また、昨年より行ってきたボランティア活動をより積極的に展開するため、東京女子大学ボランティア・ステーションを開設しました。そこで、今年度の丸山眞男文庫記念講演会には、ゴードン教授をお招きし、「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」への取り組みを通じて追求されている災害デジタルアーカイブの意義と課題についてお話しいただくことといたしました。

【講師プロフィール】

アンドルー・ゴードン氏 Andrew Gordon

1952年生まれ。ハーバード大学教授、同大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所所長。日本近代史専攻。日本語に訳されている『歴史としての戦後日本』(編著、みすず書房、2001年、上・下2冊)、『日本の200年 徳川時代から現代まで』(みすず書房、2006年、上・下2冊、新版近刊予定)や『日本人が知らない松坂メジャー革命』(朝日新聞社、2007年)は高い評価を受けている。その他に、*Labor and Imperial Democracy in Prewar Japan* (University of California Press, 1991、アメリカ歴史学会ジョン・K・フェアバンク賞受賞)、*The Wages of Affluence: Labor and Management in Postwar Japan* (Harvard University Press, 1998)などの名著がある。また、本講演に関連する文章として、「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」(共著、『みすず』2012年6月号)がある。



【丸山眞男文庫とは】

政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男の膨大な蔵書と草稿類の寄贈を機に東京女子大学は、丸山眞男記念比較思想研究センターのもとに丸山眞男文庫を設立し、資料の調査と公開を進めるとともに、講演会、読書会、公開授業等も開催しています。